



## 私とスキー

北見市 谷川亮太

私は小学校高学年からスキーを始め、中学からアルペンのレースに参加するようになりました。以後、大学までアルペンのレースに出場していましたが、特に目立った成績はないものの、スキーの楽しさは日々感じていました。

・・・・・

大学を卒業し、教職の道へ就きましたが、日々の仕事に追われる中で、スキー競技を今後も続けていくべきか否かを考えるような時期に差しかかりました。そんな時、「技術選を目指してみないか」と声をかけてくれる方がおりました。

実は、大学時代に「北海道スキー技術選手権」に何度か出場した経験を持ってはいたのですが、アルペンのレースを中心に活動していた事から参加することが目的で、結果は散々なものでした。そんな私に声をかけてくださった方の熱心な指導のおかげで、技術選に本格的に出場してみようと決心し、練習を始めました。

社会人1年目で参加した大会では、初めて準決勝に進むことが出来ました。

この大会を期に、私は今までの「早く滑り降りるスキー」というものから、「スキー技術の奥深さ」や「もっとスキー技術を追求したい」というものへ変わり、また新たなスキーの魅力にはまっていきました。

・・・・・

社会人3年目・4年目には、念願の「全日本スキー技術選手権大会」に出場することが出来ました。この出来事は、私が学生時代には思い描いてもいなかった夢のような展開でした。

二年間、全日本に挑戦した経験から他のスキーヤーとの交流も増え、その中で「スキーを教えてほしい」、「どうやったら上手に滑れます

か」など、スキー技術について問われることが多くなりました。実際に指導経験のない私には、相手にどう伝えたらよいのか迷うことが多々ありましたが、結果としてスキーについてしっかりととした指導法を学びたいと考える機会にもなったのです。

私が住む道東地区は雪も少なく、札幌や旭川圏に比べるとスキー人口も決して多くはなく、また、盛んな地区でもありませんでした。

そのような事もあり、将来「北海道のデモンスト레이ターになり、スキーの普及・発展に努め、スキーの魅力を地元中心に発信していく」という思いが、私の準指導員を目指す一番最初のきっかけになりました。

準指導員を目指す中で大切にしたこと

- 指導者を信頼して、現在のスキー技術の習得に取り組むこと
- スキーの基礎・基本の組み立てを考え、原点に返ること
- 自分の仲間を大切にすること

以上が主ですが、一緒に受検した仲間や関係者の皆さん、指導してくださった先生方にも大変恵まれ、楽しくシーズンを過ごすことが出来ました。また、他管内の受検者との交流もあり、新たな仲間も増えました。ここまでスキーを続けてこられたのも、スキーを通して出会った人達のお陰だと思っています。

これからもスキー仲間との出会いを大切にし、また一人でも多くのスキーヤーの支えになれるよう、活動し続けて行きたいと考えています。

ありがとうございました。